

「耐え忍びなさい」ヤコブ5：7～8 11・12・11 I主が来られる時まで耐え忍ぶ。：7、8。1.「こういうわけですから」→主が正しくさばき、報いられるのですから。主は私たちの苦しみ、不当な扱いを受けている事すべてを見て知っていて下さることを忘れてはいけません。すべての出来事には、神の御目的、意味がある。神の「訓練と違って耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです」(ヘブ12：7)。神は試練を通し、私たちを成長させ、主の姿に変え続けられる。2.「兄弟たち。主が来られる時まで耐え忍びなさい」。「来られる」の原語は、「王侯が領地内の町に公式に来訪すること」を意味する。その時には、この王(イエス様)の来訪(再臨)を無視できる人は誰もいない。主の再臨を示すのにこの語が用いられているのは、主の最初の来臨(クリスマス)と対比させるため。※アドベントとは、到来の意。キリストの初臨と再臨の両方に使われる。ベツレヘムで生まれ、ナザレの大工として育ち、枕する所もない人の子として生活され、人々に捨てられ十字架で死なれたイエス様は、人間的な世の欲の目には隠され、ただ信仰の目のみ、その神性を示された。しかし、この世の終わりの日に再び天の雲に乗ってこられる時、主はすべての人の目に天からの王として、すべての人の審判者として来られる。そして、主の祝福を与えるために主を信じている人々を集められる。私たちは、この素晴らしい日を信仰の目で見つつ待ち望んでいる。3.「耐え忍びなさい」とは、希望のない無気力で消極的な辛抱ではない。やがて来る確実な希望をもって忍耐すること。この語は、神の私たち人間への忍耐に用いられている(ローマ2：4、Iペテ3：20)。神が、私たちに対して計り知れず忍耐深くあられるのだから、その神の深い愛と忍耐を思い、今の苦しみを耐え忍びたい。苦しみや不当な扱いを与えている者たちに、神がすぐに報復されないからといって、①神につぶやいてはならない。神の時と私たちの願う時は違う。神には神がお考えになった神の時(最善の計画)がある。「天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある」(伝3：1)。②あせって、「自分で人に復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい…わたしが報いをする、と主は言われる」(ローマ12：19)。私たちの心に住んでおられる神である御霊は、私たちに忍耐(ガラ5：22、御霊の實の「寛容」は忍耐と同じ原語)を与えて下さる。私たちには忍耐がないことを認め、御霊に満たされるように祈ろう。そのためには神の前に静まるディボーションや祈りの時を確保することが大切。4.「農夫は、大地の貴重な実りを、秋の雨や春の雨(パレスチナの晩秋と初春の雨。この地方は雨が少なく水が貴重)が降るまで、耐え忍んで待っています」：7。農夫は、耕し種を蒔いても、雨が降るまで耐え忍んで実りを待つ。私たちもすぐに実りがなくても、コツコツとなすべきことをしつつ耐え忍びたい。この地上でも、神の

時に実りを下さる。また、主の再臨の時に正しい報いを下さる。Ⅱ「あなたがたも耐え忍びなさい。心を強くしなさい。主の来られるのが近いからです」：8。1。「耐え忍びなさい」→やけになって、主への信仰、信頼を投げ捨ててはならない。2。「心を強くしなさい」。私たちは、色々な苦しみで心が弱る。心に栄養を与え養い、心を強くするのは①生ける主の御言葉！いつも御言葉を心に蓄え、聞こう。「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから」（イザ41：10）。「金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足しなさい。主ご自身がこう言われるのです。『わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない』（ヘブ13：4、5）。②「互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。…かえって励まし合い、かの日（主の日）が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか」（10：24、25）。3。「主の来られるのが近いからです」。主の再臨は、このヤコブの手紙が記された時より二千年近づいている。ここ数年の世界中の出来事、気象の変化を見る時、主が来られる時、世の終わりについて主が語られたマタイ24章の真実性がますます確信させられる。主はいつ来られるかわからない！本当に主の再臨はあるのか？主の再臨はおそいつぶやく人への御言葉の答え→「主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。その日には、天は大きな響きをたてて消え失せ、天の万象は焼けてくずれ去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされます」Ⅰペテ3：9～10。「目をさましていなさい。あなたがたは、自分の主がいつ来られるか、知らないからです…用心していなさい。なぜなら、人の子は、思いがけない時に来るのですから」マタ24：42、44。また、私たちのほうが、主の身元に行く日（地上で死を迎え主のもとに行く）も一日一日近づいている。主にお会いできる日！その日はいつかはわからないが、「生まれるのに時があり、死ぬのに時がある」伝3：2。「私の願いは、世を去ってキリストとともにいることです。実はそのほうが、はるかにまさっています。しかし、この肉体にとどまることが、あなたがたのためには、もっと必要です…あなたがたの信仰の進歩と喜びとのために、私が生きながらえて、あなたがたすべてといっしょにいるようになることを知っています…ただ一つ。キリストの福音にふさわしい生活をしなさい」ピリピ1：23～27。「万物の終わりが近づきました。ですから祈りのために、心を整え身を慎みなさい。何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです」Ⅰペテロ4：7、8